

畜産経営における社会的責任と生産情報公開

広島県立大学大学院 今井 辰也
県立広島大学 四方 康行
県立広島大学大学院 鄒 金蘭

1. はじめに

近年におけるBSE問題、鳥インフルエンザ問題、中国の餃子問題、産地偽装問題等といったように消費者の食生活を脅かし、改めて現在における食の安全・安心という考え方をよりいっそう深刻なものにしてきている。こうした状況の中で、企業の社会的責任が広範に問われるようになってきた。社会的責任は単に不祥事や法令違反に対してその責任が問われるというレベルのものだけではなく、経済活動を行う主体としてステークホルダーに対して環境対策、雇用に対する問題、消費者に対する情報公開など、公的利益を考慮していく必要がある。畜産経営における食の安全という観点からは、牛トレサ法や生産情報公表 JAS 規格があげられる。前者においては個体識別、後者においては生産情報といった点で公表される情報に大きな相違がある。生産情報公表 JAS 規格では個体情報に加え管理者が食卓から農場までの生産過程に係る情報を公表し消費者に正確に伝えていることを第三者機関が認定を行うものである。このように経営主体にとって法令の遵守あるいは認証規格によって消費者に対する食の安全を確保することが可能であり、また、ステークホルダーに対する社会的責任に対応することのできる一つの手段とすることができる。そうした上で畜産経営における社会的責任としての生産情報公表 JAS 規格をとりあげることは重要である。

2. 研究方法

従来の研究においては、経営事例をもとにその特徴や課題、あるいは、取り組みについて取り上げられている。ただ、社会的責任として生産情報公表 JAS 規格を取り上げられていない。そこで本報告では畜産経営における社会的責任とはどういったものがあげられるのかということ、生産情報公表 JAS 規格に着目し、ヒアリング調査、アンケート調査をもとに分析をおこなう。

3. おわりに

企業の社会的責任は今後の経営活動におけるリスクマネジメントだけでなく、ステークホルダーに対する情報公開等のように企業と社会の関係が重要となりつつある。そうした傾向は一般企業だけではなく、食の安全・安心といった消費者に対する畜産経営においても例外ではない。そうしたなかで生産情報公表 JAS 規格をもとに畜産経営における社会的責任との関係について事例をもとにまとめと考察をおこなう。